

目 次

学術論文

馬介在学習を通して子どもたちが経験した学びと感情 土田俊弥ほか 1

馬事往来

シンザン没後 30 年～走り続ける伝説 関 正喜 12

馬事資料

日露戦争時の濠洲産馬の輸入 三村敦彦 18

学術集会

国際展サロンドトヌヘ馬の絵を出品

—馬術を教え、ウマを描く日々— 倉田タカユキ 25

馬の絵画、写真、彫刻の展示会を企画 倉田タカユキ 35

書籍紹介

日本の馬の仕事図鑑 荒川由紀子 45

協賛団体・賛助会員名簿

編集後記 47

Hippophile No. 105

－編集委員－

編集担当常任理事・編集委員長 楠瀬 良（日本装蹄協会）

編 集 委 員	阿部 憲二（全国乗馬倶楽部振興協会）	末崎 真澄（馬の博物館）
	明石祐一郎（地方競馬全国協会）	関 正喜（ジャーナリスト）
	荒川由紀子（サラブレッド・アフターケア・	戸崎 晃明（競走馬理化学研究所）
	アンド・ウェルフェア）	永井富美子（エディター）
	有吉 正徳（競馬ライター）	沼田 恭子（NPO 法人引退馬協会）
	安齊 了（元JRA/競走馬理化学研究所）	古林 英一（北海学園大学）
	北野あづさ（日本馬術連盟）	三浦 暁子（エッセイスト）
	木村李花子（東京農業大学）	守谷 久（ジャーナリスト）
	近藤 誠司（北海道大学）	山下 大輔（日本馬事協会）
	近藤 高志（JRA 競走馬総合研究所）	

表紙絵：騎手（The Jockey）：アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック（1864-1901）1899 年 49.8×34.1 センチ多色刷り

リトグラフ 馬の博物館蔵

「騎手」は、晩年に近い療養中に一連のサーカスシリーズとともに表した作品である。ロートレックは、少年の頃に父親とともに乗馬をし、競馬場にもしばしば通った経験があり、晩年に再びその情景を思い巡らしている。後ろ姿の騎手は、あるいは馬と競馬を愛した父と自分の姿を映し出しているのかもしれない。

日本ウマ科学会

Japanese Society of Equine Science